



第2回

公開授業

社会科と子どもに向き合う会

2024.6.15(土) @成城学園初等学校

講師 **小林宏己先生**

(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)



13:00~

受付

13:30~14:15

公開授業

5年生 葵組

[工業生産の光と影] **宮田諭志**



14:30~16:00

全体提案・グループ協議

16:00~17:00

小林先生と授業者による

シンポジウム

17:00

閉会



参加費 資料代として1000円を当日いただきます

申し込みフォーム <https://forms.gle/HJRvu943unxpMudu9>

*いくつかの教科部との共催となっています。申し込みフォームにて「社会科」を選択してください。



当日の運営についてご質問等ありましたら担当小宮山までご連絡下さい。

komiyama-w@t.seijogakuen.ed.jp

なぜ「向き合う、会なのか」

私たち成城社会科部は、社会科という教科を通して「よい選挙民としての資質を育てる」ことを目指しています。そこには、子ども一人ひとりがみずから考え、みずから行動し、みずから責任をとろうとする人になってほしいという願いを込めています。そうあるためには、子どもが今葛藤していること、心や体が動いていることが表れるような授業を日々創っていくことが大切だと考えています。しかし、思いはあれど実践することはとても難しく、理想と現実の狭間で足踏みしてしまいます。そこで、今一度“社会科の授業とはどうあることがよいのだろうか”“子どもの『今』が授業に表れているだろうか”という問いに向き合う授業研究会を開くことに致しました。

部員は若手と中年です。“そもそも授業づくりって何から始めたらいいの？”“子どもや保護者の方との関係づくりって難しい…”といった悩みも尽きません。向き合う問いは年齢によっても様々です。皆さんはいかがでしょうか。

この会が、多様な立場・世代の先生方が集い、社会科の授業や目の前の子どもとの関わりに向き合う場となってほしいと思っています。皆さん同士のつながりが広がっていけば、なお幸いです。ぜひ一度、成城学園初等学校の教室にいらしてください。

第1回 社会科と子どもに向き合う会レポート

50名を超える皆様にご参会頂き、多様なテーマで議論をさせていただきました。例えば「教材」です。4年生の授業では、ごみ収集に携わる人の姿を撮影させて頂いた動画資料。普段は決して見ることができないごみ収集の現実に子ども達が向き合い、一人ひとりの経験や新たな問いが投げかけられる授業になりました。6年生はどの教科書にも掲載されている武家屋敷の絵図を主教材に。武士に頭を下げる農民に着目することで、“武士とはどんな立場なのか”という素朴な問いに向き合う時間となりました。一方で、ごみ収集に携わる方のどこに注目させたかかったのかが見えてこない、教科書資料+αの史料が追究の根拠として示されるべきではなかったかなど、授業者の教材研究・授業づくりへに関する課題が見える時間となりました。



講師の小林宏己先生からは、「教材」に明確なねらいや探究の物語を描く際の着眼点を具体的に示して頂きました。また、単元を探究的な学びへとデザインしていく過程では、教師が用意した計画と子どもの自律的な学びとの間に生じたズレを自覚し、子どもの言葉と思考を中心に修正されていく必要があること。そうして生まれた「構築教材」を活かしていく事で、子ども自身が「授業は自分たちがつくっているんだ！」という充実感や自己有用感をもつことにつながっていくということ、授業中の子ども達の姿をもとにお話して頂きました。

参会された皆様より

「土下座している人」は、教科書の折込の都合も含めて見逃す児童が一定数いたのではないかと思います。教師の導きによって、児童にとっては楽しい導入の活動だったのだらうなと思いました。児童から「おえらいさん」や「位の高い人」という発言が出てきていたので、農民の姿が混乱してきたくらいところで【貴族⇔武士⇔農民】それぞれの関係性をもう一度抑えてみてよかったのかもしれないと思いました。(前単元で貴族の政治と、税に苦しむ農民をおさえているため)

「5分休みで準備できないと午後の授業が減ってしまうのと同じで、ごみ収集の人が小さなごみを拾っていたら休みがなくなってしまう」という発言は、子どもならではのおもしろい視点で、その直後の宮田先生の「自分たちのお昼休みがなくなるのと、ごみ収集員の人の休みがなくなることの原因は同じ？」という(口頭での)発問は、役割の範囲や責任などにつながる、かなり単元のねらいに近いところだったのかと思います。もしこの発問をクラス全体に投げかける問いにしていたら、児童からどのような発言がでていたのだろうか、というのも気になりました。

はじめは、90分のグループ討議は長いのではと感じましたが、始めてみるといつのまにか終了時間というようになっていた。多様な関心や立場の参加者の方と小グループで話し合うことができる場を設けていただいたことに感謝いたします。



当日の運営についてご質問等ありましたら担当小宮山までご連絡下さい。

komiyama-w@t.seijogakuen.ed.jp